Ⅰ　調査の概要

１　調査の目的

本調査は、次の目的から文部科学省が実施するものです。

○　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

○　本取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

○　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

２　調査の実施に関する芦別市教育委員会の基本的な考え方

芦別市教育委員会では、本調査の目的からその意義を認め、定められた方法に従って、対象児童生徒の在籍する市内小中学校で調査実施したものです。

なお、本調査に対する芦別市教育委員会の基本的な考え方は次のとおりです。

○　平成１８年度より既に実施している市内統一学力テストと同様に、各学校が児童生徒の学力・学習状況を的確に把握し、教育課程の改善と適切な教育指導のために積極的な活用を図ること。

○　今回の調査で測定できるのは「学力の一部」であり、児童生徒の学力のすべてではないこと。

○　調査結果は、学校や児童生徒の序列化や比較を行うものではないこと。

○　調査結果の公表やその結果から検討された改善策の公表などについては、各学校長の判断であること。

３　対象学年及び調査人数

○　小学校第６学年　（４８人）　　○　中学校第３学年　（５７人）

４　調査実施日

令和７年４月１７日（木）

５　調査内容等

⑴　調査項目

小学校　国語（時間４５分間、問題数１４問）
　　算数（時間４５分間、問題数１６問）
　　理科（時間４５分間、問題数１４問）
中学校　国語（時間５０分間、問題数１４問）
　　数学（時間５０分間、問題数１５問）
　　理科（時間５０分間、問題数２６問）

⑵　教科に関する調査

①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

⑶　生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

①　児童生徒に対する調査

・　調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを調査

②　学校に対する調査

・　学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関することを調査

⑷　令和７年度の調査問題・質問紙調査・正答例・解説資料等

令和７年度全国学力・学習状況調査の調査問題・正答例・解説資料等については、国立教育政策研究所のホームページに掲載されています。http://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html